

学びで広がる新たな可能性

Special Interview

福岡県立小倉高等学校

成友 快さん(3年生) 高城 将英さん(3年生)
松川 菜々子さん(3年生) 岡野 菜月さん(2年生)
徳永 紀美さん(進路指導部 キャリア教育係長 教諭)

大学での学びの素地ともいえる「思考力」「判断力」「表現力」を育み、課題解決型人材の育成につなげる取り組みが、文部科学省のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)※に指定されている福岡県立小倉高等学校で行われている。同校では「国際社会に貢献できる人材の育成」を教育目標に掲げており、SDGsの視点を踏まえた課題研究活動をSSHの学校設定科目に取り入れている。地域や世界の課題解決に向けて一歩を踏み出した生徒たちに、活動を通しての「気づき」と「学び」について語ってもらった。

※科学技術・理科・数学教育研究を重点的に行う研究指定校。

SDGsの視点で考える 私たちの課題解決への取り組み

地域や世界には さまざまな課題がある

成友 1年生のとき、地元の本手の方々に「協力いただき、北九州の課題解決を目指す活動にクラス単位で取り組みました。私は障がい者スポーツである車いすソフトボールの普及について考察し、その成果を地元ラジオ局で発表するという一連の流れを携わることができ、とても貴重な体験をしました。

高城 僕は小学生の頃から建築士になりたいと思っていて、2年生のときの課題研究では「建築ゼミ」を選び、SDGsの「住み続けられるまちづくりを」と関連づけて取り組みました。ちょうど門司港駅が復原作業をしているところだったので、1年間を通して門司港駅とその周辺の建築物を調査・研究できて面白かったです。

松川 私は世界につながる研究をしたいと、途

上国の貧困をなくすことを目的にフェアトレードをテーマに選びました。まずはフェアトレード商品を販売しているお店を伺うなどのリサーチから始めたのですが、調べうちにジェンダーや教育などさまざまな課題につながっていることを知って驚きました。世界には私が思っているより深刻な問題がなさんあるのだと。

岡野 私はビジネスプランコンテストに出たいという仲間たちと一緒に「北九州がもつ負のイメージを良いイメージに変えよう」という目標を立てて活動しました。そこで注目したのが日本三大夜景である皿倉山の夜景を活かしたまちのイメージアップです。夜景を十分に堪能してもらうために山の頂上にコンテナを利用した宿泊施設をつくらうと考えたのです。でも、専門家の方々でいろいろお話を伺ううちに、資金面や法律面でいろいろな問題をクリアしなければいけないことがわかりました。

成友 考えたいことと現実との違いは自分も感じました。車いすソフトボールを普及させる活動をしていいたのですが、障がい者の方々の中には「今のまま少数人数で楽しみたい」という人もおられたのです。でも、それも実際にお会いしてみてもいいかなと。この経験を通じて、次に付けていきたいです。

大学での学びにつながる多くの「気づき」があった

高城 ほんと多くの現場の方々のお話を伺うことで、建築士には建物を作るだけでなく、建物からまちの雰囲気をつくったり、みんなが暮らしやすいまちにしたり、広い視野でまちづくりを考える人だということを知りましたが、大学は建築関係の学部に進むつもりですが、この活動を通じて大学で何を学びたいかが変わってきました。

松川 いろいろな課題を知ることが、もっと深く調べたい、もっと知りたい、と思うようになりました。だから、大学は経済学部に進学して、フェアトレードについて専門的に学んでいきたいです。受け身ではなく自分から主体的に動いたことで、学びたいことが、やりたいことが明確になった気がします。

岡野 私は夢とかなりたい大学とかもなかったんですが、地域活性化のビジネスプランを考えたいことでは経営学に興味があります。

成友 自分はゼミ以外にも、校外の方とグループディスカッションする機会をたくさんいただきました。相手の意見を聞いて、自分で考え、発言する力がついたと感じています。

高城 ほんと専門家の方々の前でポスター発表をしたことで、自信をもって自分の意見を言えるようになりました。

松川 ゼミをきっかけに文化祭でフェアトレードのカフェを開いたのですが、グループのリーダーを務めたことで積極性ができ、弱気な面が克服できたと思います。

課題研究活動を通じて自分の将来につながる学びを

徳永 高校での学びは単に大学入試のための勉強ではなく、もっと先の自分の将来につながるものでなければなりません。そうした意味から本校の課題研究活動は「なぜ学ぶのか」という動機付けになると考えています。また、自分たちで仮説を立てて研究し、その道の方々に聞き取りをするというのは、教室ではできない学びのスタイルです。授業で学んだことを頭だけで理解するのではなく、自分ごととして捉えることでいろいろな可能性が見えてくるのではないのでしょうか。



①卒業生と在校生によるパネルディスカッション ②「課題研究」での車いすソフトボルト体験 ③課題解決型学習法による「課題研究」の授業 ④「建築ゼミ」での「門司港建築ツアー」

小倉高校の課題研究活動 2015年度より、全生徒を対象に導入。第1学年の「課題研究1」で、北九州市の抱える課題を発見し、解決策を考察・提案する教育プログラムを実施。第2学年の「課題研究II」では、興味がある分野ごとに専門分野(ゼミ)に分かれ、1年間を通して研究活動を行う。いずれも、パワーポイントによる口頭発表やポスター発表などでその成果を生徒自身が発表する機会が設けられている。